

まっすぐ誠実に粘り強く

E-mail : yamatake@yamamoto-takeshi.net  
TEL : 090-9766-7645

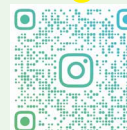
WEB・ブログ



facebook



Instagram



twitter



市民クラブの山本たけしです。

暑い日が続いておりますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、今年の夏は、地域コミュニティの原点である「お祭り」が市内各地区・町内で再開されるとともに、9月には、待望の「敦賀まつり」が4年ぶりに開催される予定となっています。こうして、季節の風物詩とも言える郷土の行事が再開となり、市民皆で楽しめる状況になったことを心から喜ぶところです。

今回のニュースは、6月定例会の内容を中心に、自身の活動をご報告いたします。ぜひご覧ください。



## やまたけ2期目の役職

- 議会運営委員会 / 委員
- 予算決算常任委員会 / 委員
- 文教厚生常任委員会 / 委員長
- 広報広聴委員会 / 委員
- 嶺南広域行政組合議会 / 議員
- 福井県後期高齢者医療広域連合議会 / 議員

がんばります!

6月定例会は、改選後初めて、米澤市長と交わす一般質問となることから、敦賀の将来を見据えた議論をすべく質問項目を設定しました。地方議員であっても、政治に身を置く立場として、常々頭にあるのは「国家の役割」。1つは「国を守る」、2つ目は「業を興し民を豊かに」、そして3つ目が「人づくり」ですが、今回はこのうちの2点を念頭に「GX実現に向けた基本方針を踏まえた産業振興」と「これからを支える人への投資」について質問しました。



## 提言 1 市の産業政策における基本方針は 今後も従来の考えを踏襲するのが!

まず私は、市長交代にあたり、市の産業政策における基本スタンスとして、「基幹産業として原子力を置きつつ、産業構造を複軸化していく」との従前の考え方を踏襲されるのか質問。市からは、「共創会議」における立地地域の将来像の方針に基づき、**「今後も引き続き原子力産業を基幹としつつ、原子力と新たなエネルギーのベストミックスを図りながら産業構造の複軸化を目指していく」**旨の考えが示されました。

## 提言 2 これからの産業振興に 欠かせないのは「GX」の視点!

最早、世界の潮流は「グリーントランスフォーメーション (GX)」であり、日本政府においても「GX実現に向けた基本方針」を本年2月に閣議決定したところ。また、本市においては、北陸で初の「脱炭素先行地域」に選定されていることも踏まえ、私は、「成長産業、GXに取り組む事業者を市として積極的に後押ししていく考えで良いか」確認したところ、市からは、**「環境意識の高い企業を呼び込み、新たな産業、雇用、サービスを創出する脱炭素化を契機とした地域活性化の好循環を目指すこととしている。**この方針に基づき、今後も対象区域の脱炭素化に取り組んでいく。」との答弁がありました。

## 提言 3 GXに取り組む市内企業への支援を よりスピード感をもって行うべき!

既に約700社が参画する日本の「GXリーグ(※)」。大手企業がこうした取組みに参入することにより、既にサプライチェーンを含めた市場競争環境において、「脱炭素」が必須の要求条件(仕様)になりつつあります。つまりは今後、中小を含む市内事業者においては、この要求に応えることが急務となることを見越し、**「GXに先行して取り組む市内事業者に対する市独自の支援制度を構築することが、市内企業の価値を高め、今後の産業振興の鍵を握るとの考えを意見しました。**市からは、「まずは市内企業の意識啓発を図るとともに、必要とする支援策の洗い出しを行っていく必要があると考えている。」との答弁がありました。敦賀の「優位性」を発揮するためには、よりスピード感をもって行うべきと考える次第です。

### 「GXリーグ」とは?

カーボンニュートラルへの移行に向けた挑戦を産官金(金は金融)の連携で果敢に行い、国際ビジネスに勝てる企業群がGXを牽引する枠組みのこと。自らの企業の排出の削減、サプライチェーンでの排出削減、グリーン市場への創造が、参加企業に求められる取組みとなっている。



一般質問の詳細は「敦賀市議会インターネット中継」よりご覧ください!  
<https://tsuruga-city.stream.jfit.co.jp>



提言  
4

敦賀と深く関わるエネルギー産業  
今後の鍵を握るのは「次世代革新炉」!

国がGX政策を進めるうえにおいて欠かせないのが、低廉で安定した脱炭素電源である「原子力発電」の存在。とりわけ、これからの敦賀、嶺南地域にも関係する「次世代革新炉」について、開発に向けて必要なのはまず、「規制において求める基準の明確化」、事業者が予見性を持って開発に進むことができる「直接投資などを含めた事業環境の整備」であり、国がスピード感をもって対応されるよう、全原協の立場からも繰り返し意見していただきたい旨、進言しました。米澤市長からは、「(私の意見と)考えは同じである」とした上で、既に「資源エネルギー庁に対して、事業者が次世代革新炉に取り組むことができる環境の整備を強力に進めるよう求めた」との答弁がありました。

昨今の欧米での原子力開発がそうであるよう、**国策として開発のロードマップを示した以上、事業者任せにすることなく、計画通りに進むよう国が前面に立って役割と責任を果たすべきと考えます。**



三菱重工が設計を進める革新軽水炉「SRZ-1200」  
(同社ホームページより引用)

提言  
5

これからの支える  
「人への投資」は必要不可欠!

深刻な少子高齢化が進むなか迎える「2040年問題」なども視野に、社会全体としてあらゆる分野での成り手不足が想定される一方、急速な成長を遂げるデジタル社会は、こうした構造的問題による負荷を軽減、解決する大きな糸口になると考えます。

その上で、**何事もそれを為すのは「人」であり、私は①地域人材、②デジタル人材、③雇用を支える人材の3つの視点から、「人への投資」の必要性について意見しました。**

市からはそれぞれ前向きな答弁があり、とりわけ雇用を支える人材に関しては、市だけでなく商工会議所などと連携しながら新卒者の地元定着に向けた仕組みを考えていくとの答弁がありました。引き続き、「地域づくりは人づくり」の考えのもと意見してまいります。

会派として、補正予算議案、請願2件に対し「討論」を行う

採決前の討論では、市民クラブ所属の3名(今川博議員、豊田耕一議員、私)それぞれが、補正予算案1件、請願2件について討論しました。

いずれの討論も、議会が「言論の府」であることを強く意識したうえで、賛否に対する考えを明らかにするとして臨んだものであり、当会派としては今後もこの思いのもと「議決権者」としての責任と役割を果たしていきます。

活動スナップ



6月11日

「海ごみプロジェクト 2023 in 敦賀」に参加(場所は大比田海岸)



6月18日

「第42回敦賀市総合美術展」の開場式に文教厚生常任委員長として出席



7月16日

「第26回敦賀港カッターレース」に市議会チームとして出場

過去に学び 未来に期待し 今日に生きる

設立から46年目を迎える敦賀の市民歴史団体「気比史学会」。その会是は、表題のフレーズです。今年度も開講した「敦賀市民歴史講座」では、古墳時代前期(4世紀)から後期/終末期(6世紀~7世紀初期)までの「古墳時代の敦賀」について、お話を伺いました。

とりわけ、向出山(むかいでやま)古墳群に関しては、昭和55年(1980)~58年(1983)には、トンネル温泉造成事業の開始によって存続の危機に瀕しましたが、気比史学会による保存運動が展開され、当時の高木孝一敦賀市長の英断もあって、最終的に、1号墳については公有地化されました。その後、中郷古墳群として国の史跡に指定されたこと。また、同古墳群は、地域の古墳時代を解明するうえで貴重な首長墓群であること。さらには、全国的にも稀有な金銅装の胃(右写真①)や頸甲(右

写真②)など、豪華な副葬品の出土でも知られます。

改めて、当時の並々ならぬ文化財保護に対する思いと行動力に敬意を表するとともに、古墳時代から日本有数の海陸両面での「交通の要衝」として栄え続けてきた、わがまち「敦賀」を誇りに思うところです。

こうして「地域史」を知ることは、郷土への愛着や誇りを育み、さらなる発展に向けて進む「原動力」となるもの。

設立以来の会是を胸に、今後も「歴史と文化」を大切にしまちづくりに取り組んでまいります。

向出山古墳1号墳  
(当日の講座資料より引用:  
出典元は「図録敦賀の文化財」)



① 金銅装盾庇付冑



② 金銅装頸甲

ちょっと、ひとこと。

